

特集「花粉の状況と対策」を企画して

特集担当編集委員 浅井 直親、根本 源太郎

多くの人々を悩ませている花粉症は、スギやイネなどの植物の花粉が原因となって、くしゃみや鼻水などの症状を起こしている。日本において花粉症を有する人の数は正確なところは分かっていないが、30%とも40%以上ともいわれている。毎年この時期になると花粉飛散量が話題となり、心配される方も多く見受けられる。この花粉はある意味において最も身近な「粉」のうちの一つであり、通常はこの「粉」をどのようなプロセスで製造するかに重点を置いた企画となる。今回の特集は身近な生物由来の粉体である花粉をクローズアップし、花粉症のメカニズム、飛散状況およびさまざまな対策について解説いただいた。

松山大学の難波弘行氏には、「花粉症における原因花粉と花粉症対策—ヒノキ科花粉の飛散状況と花粉症関連疾患—」と題し、スギ花粉症やその原因物質に関して、愛媛県松山市における年間ヒノキ科花粉数の推移や翌年の予測数について解説いただいた。さらに花粉症発症のメカニズムや花粉症の原因となる植物を紹介すると共に、花粉症対策としての薬物療法における注意事項について分かりやすく説明いただいた。

神奈川県自然環境保全センターの齋藤央嗣氏には「神奈川県における花粉症対策—花粉量の予測から無花粉スギ・ヒノキまで—」と題し、スギ・ヒノキの花粉症対策として神奈川県自然環境保全センターで取り組んでいる花粉量の予測と林木の品種改良を中心とした話題について紹介していただいた。この活動の中で発見した無花粉ヒノキは、全国初であった。

鳥居薬品(株)の夏井謙介氏には「スギ花粉症治療最前線(舌下免疫療法)」と題し、アレルギー疾患に対して唯一根治の可能性のある治療法として、近年ではアレルギー免疫療法が見直されてきており、その中で投与が簡便であることから注目を集めている舌下免疫療法の現状について解説いただいた。

興研(株)の久保公平氏には「花粉の吸入を防止するためのマスク」と題し、花粉対策グッズとして現在ではマスクやメガネをはじめとしてさまざまな花粉対策グッズが販売されているが、花粉のばく露対策として有効な手段のひとつであるマスクについての特徴や効果などをデータをもとに紹介していただいた。

帝人フロンティア(株)の長尾英治氏には「花粉対策繊維製品の紹介—花粉対策衣服用繊維材料(生地)について—」と題し、花粉対策衣服用繊維材料(生地)について解説いただいた。花粉症を防止するために衣服表面に着いた花粉を繊維材料から落ちやすくすることが重要であり、外出して屋内に入る際に花粉を持ち込まないことも屋内で快適に過ごすための重要な対策である。

ダイキン工業(株)の田中利夫氏には「空気清浄機による花粉の除去」と題し、室内に浮遊する花粉の特徴と、それを除去する空気清浄機の仕組みと技術、効果について解説いただいた。空気清浄機で空気中の花粉抗原を大幅に減らすことが可能であり、花粉を体内に吸い込むリスクを低減できるという点では空気清浄機は有用な機器である。

本特集号が、現代の社会問題となっている花粉症の対策にどのように貢献するか、また、そのためにはどのような技術開発が必要なのかを考える機会となり、新しいビジネスチャンスのヒントを見つける助けとなれば幸いである。